



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 110号 2010.7.29 発行 社会政策研究所

=====

7月27日開催の第5回総合福祉部会は、少し論議で荒れたようです。当日は膨大な資料が提供されました。資料は以下のサイトにて。【kobi】

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/sougoufukusi/2010/07/0727-1.html>

障害者の全国実態調査案、猛反発で見直しへー総合福祉部会

2010年07月27日 キャリアブレイン

内閣府の「障がい者制度改革推進会議」は7月27日、廃止される「障害者自立支援法」に代わる新法策定について議論する「総合福祉部会」の第5回会合を開いた。この中で、新法策定に必要な全国規模の障害者の実態調査案が、委員から「精神障害者を殺す調査方法だ」などと猛反発を受けたことから、調査方法が見直される見通しとなった。

問題視された「全国在宅障害児・者実態調査（仮称）の基本骨格（案）」の調査方法は、調査員が訪問して調査対象の有無を確認し、調査票を手渡しして郵送で回収する「自計郵送方式」。これについて山本眞理委員（全国「精神病」者集団）は、調査を受けた精神障害者が自殺に追い込まれることを懸念。現行案では「断固容認できない」などとして、調査員と対面しない電話を介した調査方法を検討することなどを提案した。

また、在宅の障害者を対象とし、施設や病院に入所あるいは入院している障害者を対象外としたことについて、複数の委員が「在宅だけでは障害者の実態を把握できない」と反対した。

これに対し、精神障害者の調査方法に配慮する一方、新法策定に向けた基礎調査となるため、在宅の障害者を対象に「早期実施を優先すべき」とする意見もあった。

調査方法の検討メンバーでもある佐藤久夫部会長（日本社会事業大教授）は、調査方法は「見直しが必要だろう」とし、事務局を務める厚生労働省は「一意見として受け取り、さらに議論する」とした。

■山井政務官「ねじれ国会も超党派で一致へ」

部会では冒頭、山井和則厚労政務官があいさつ。「ねじれ国会になってしまったが、障害者福祉は党派を超えて一致できる」と述べ、参院選で民主党が大敗した後の障害者福祉政策で野党との連携を深める意向を示した。また、「天下りなどの無駄を徹底してカットし、障害者福祉の予算が増えるように頑張る」と述べた。



「障がい者制度改革推進会議総合福祉部会」の第5回会合が開かれた（7月27日、厚労省）

■「障害」種別を列記せず

また部会では、「障害」の範囲や「障害程度区分」などについて議論。障害種別を列記して障害の範囲を決める手法を取らない「包括的規定」を目指すことや、障害程度区分を廃止して新たに障害者の支援に必要な客観的な評価手法について議論するとの方向性が示された。

今後は9月までに2回、論点の問題意識を共有するための会合を開く。10月からは論点別に作業チームを設けて各論を詰め、これをベースに来年4月からまとめに入り、8月に骨子を固める方針。

PR リンク 2010.7.27

(プレジャーサポート株式会社)

社会貢献につながる置き菓子プロジェクト始動 障がい者がつくったお菓子を事務所や控え室で販売 ~ 作業所でつくったお菓子の新たな販路を模索 ~

障がい者支援を行うプレジャーサポート株式会社(本社:大阪市 代表取締役:町 孝幸)は会社の事務所や美容室の控え室で障がい者作業所の手作り菓子を販売ボックスに入れ、置き菓子として販売するサービスを7月より東大阪市、大阪市内で実験的に開始しています。品質が高い商品を生産できるのに販路が限られているという作業所の問題を解決すると共に、お菓子の購入が小さな社会貢献につながることで、従業員の社会意識の向上につなげます。9月には専用の販売ボックスが完成し、本格的な展開を行う予定です。年内30ヶ所の設置を目指します。

平成18年度に障害者自立支援法施行され、障害者の経済的自立のための工賃水準引き上げを目指し平成19年度の「工賃倍増5か年計画」が開始されました。平成21に厚生労働相が発表した調査によると施設で働く障がい者の平均賃金月額は12,587円と低く、さらに大阪府は9,130円と日本で最も低い工賃になっています。プレジャーサポートは施設で作られた物の販路が限られていることが低賃金の原因のひとつと考え、昨年に障がい者支援プロジェクト「CHANCEプロジェクト」を立ち上げ大学生による商品発掘、販売会の実施を行ってきました。

社会貢献につながる置き菓子



限られたスペースでの販売

設置した MASHU ADOBE 店



豊富な品揃えを実現



置き菓子は休憩室や事務所などに設置を行ないます。商品は学生が約200の障がい者施設を訪問し選んだよりの菓子を販売。お菓子の購入者は代金を貯金箱に入れ、定期的に巡回者が回収を行います。試験的に設置した店舗からは「社会貢献が身近に感じた」といった声をいただいています。9月には専用の販売ボックスが完成し本格展開を行う予定です。また今後は代金の回収、商品の管理をひきこもりや何らかの理由で社会にできない若者が行うことによってそのような人達の社会

進出、雇用促進につながることを目指します。

プレジャーサポート株式会社 広報担当 町 孝幸

〒541-0051 住所：大阪市中央区備後町4丁目3-6

TEL: 06-6226-0108 FAX: 06-6226-0109

ホームページ: <http://www.pl-support.jp/> e-mail: info@pl-support.jp

昭和初期の空き店舗改装して社会福祉法人が食堂オープン

下野新聞 2010年7月28日



【栃木】大光寺町の社会福祉法人・なすびの里（殿塚治理事長）は29日、万町になすび食堂をオープンする。市中心部に残る昭和初期の建物を改装して運営する。殿塚理事長は出店目的について、「（障害者と健常者が社会生活を共にする）ノーマライゼーションの推進と伝統的な町並み保存に一役買いたい」と話す。

なすびの里は、障がい者支援施設「ゆうの家」とデイサービスセンター「なすびの里」を2施設を核に2002年スタートした。

メニューは、うどん類をはじめ、定食や飲み物類など。うどんは、ゆうの家の就労者が計量から仕込み、製麺まで手掛ける。

当面、就労する障害者は2人の予定。調理は専門家を雇う。

店舗は、昭和初期の1927年に建造された空き店舗を利用。明治時代末期、塩乾物商として創業した「嶋田家」が所有するものだ。

食堂は、和室の一部や建具を残して約70平方メートルの室内をリフォーム。長いすに、元第1小にあった階段を再利用するなどした。「レトロな感覚と現代建築を融合させた」（殿塚理事長）とし、癒やし空間を演出した。

改築資金は、使われない公共施設や空き店舗、民家などを改修し、福祉の拠点として再活用を援助している日本財団の「もったいないをカタチに」モデル事業を活用。これに加えて、市の歴史的町並み景観形成補助金も活用した。

殿塚さんは「将来は、働きたいと考える障害者を増やし、ホール2人、調理場に2人の2交代で行いたい」と話している。営業時間は午前11時から午後5時。水曜定休。

問い合わせは同店（29日から）電話 0282・23・1010。

たまには太陽の子・手をつなく、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなく育成会 社会政策研究所発行